

『女性の加齢意識と生活スタイルに関する調査』 ～女性のエイジングと下着の心理学的研究～

2012年3月12日

株式会社ワコール

広報・宣伝部

株式会社ワコールは、女性心理と下着との関係を社会科学的な手法で調査研究するプロジェクト『cocoros(ココロス)』にて、『女性の加齢意識と生活スタイルに関する調査』を実施しました。

『cocoros(ココロス)』は、2005年より聖心女子大学 文学部教授 菅原健介氏(専門:社会心理学・性格心理学)と共同研究を進め、2010年には『女性の身体意識と生活スタイルに関する調査』も発表しています。

20歳代から70歳代前半の、首都圏在住の女性1,114人を対象に意識調査を実施し、年齢により、外見の加齢に対する意識だけでなく、加齢という現実に向き合う意識がどのように変化するか、また下着に対する意識がどのように変化するかが明らかになりました。

＜外見の加齢に対する意識の変化＞

■「見られたい年齢」は「実年齢」より平均 5.6 歳若い年齢(P2)

「実年齢」と「見られたい年齢」との差は、20歳代で1.3歳、30歳代で4.5歳、40歳代で6.2歳、50歳代で7.7歳、60歳代で7.3歳、70歳代で7.6歳という結果で、平均で5.6歳、それぞれ若く見られたいと思っています。

＜加齢という現実に向き合う意識の変化＞

■「年をとる」イメージは、加齢とともにネガティブからポジティブに変化(P3)

「年をとる」イメージは、20歳代では「熟練」「成熟」が高く、40～50歳代では「入院・介護」「寝たきり」とネガティブなイメージが高いが、60歳代では「ゆとり」「悠々自適」とポジティブなイメージが高くなります。

■加齢とともに「他人と接点のある生き方」から「自立する生き方」へ(P3)

「人生の終盤の生き方」について、20歳代では「多くの人と接しながら生きる」ことが75.7%、50～60歳代では「他人に依存することなく自立して生きる」ことが80%以上と全体に比べて高く、加齢とともに生活志向が変化していきます。

■加齢とともに「他者からの評価や外見」から「充実感」を意識(P4)

20歳代では、周囲への気遣いや外見を気にする項目が全体に比べて高い傾向にあります。60歳代ではこれらの項目には低い傾向ですが、充実感に関する項目は70%以上と高くなります。加齢とともに意識する対象が変化していきます。

＜加齢にともなう、下着に対する意識の変化＞

■下着選びのポイントは「補整・デザイン」から「シンプル」へ(P4)

年齢が若いほど、着用したときのボディラインや下着そのもののデザインを意識している項目に高い関心を示していますが、年齢が高くなるほど、シンプルなデザインや色に高い関心を示しています。

【参考】聖心女子大学 文学部教授 菅原健介氏による考察(P5)

【『女性の加齢意識と生活スタイルに関する調査』概要】

【調査対象】首都圏居住の 20～74 歳の女性 1,114 人

(20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代、各年齢層で約 200 人、70 歳代で約 100 人)

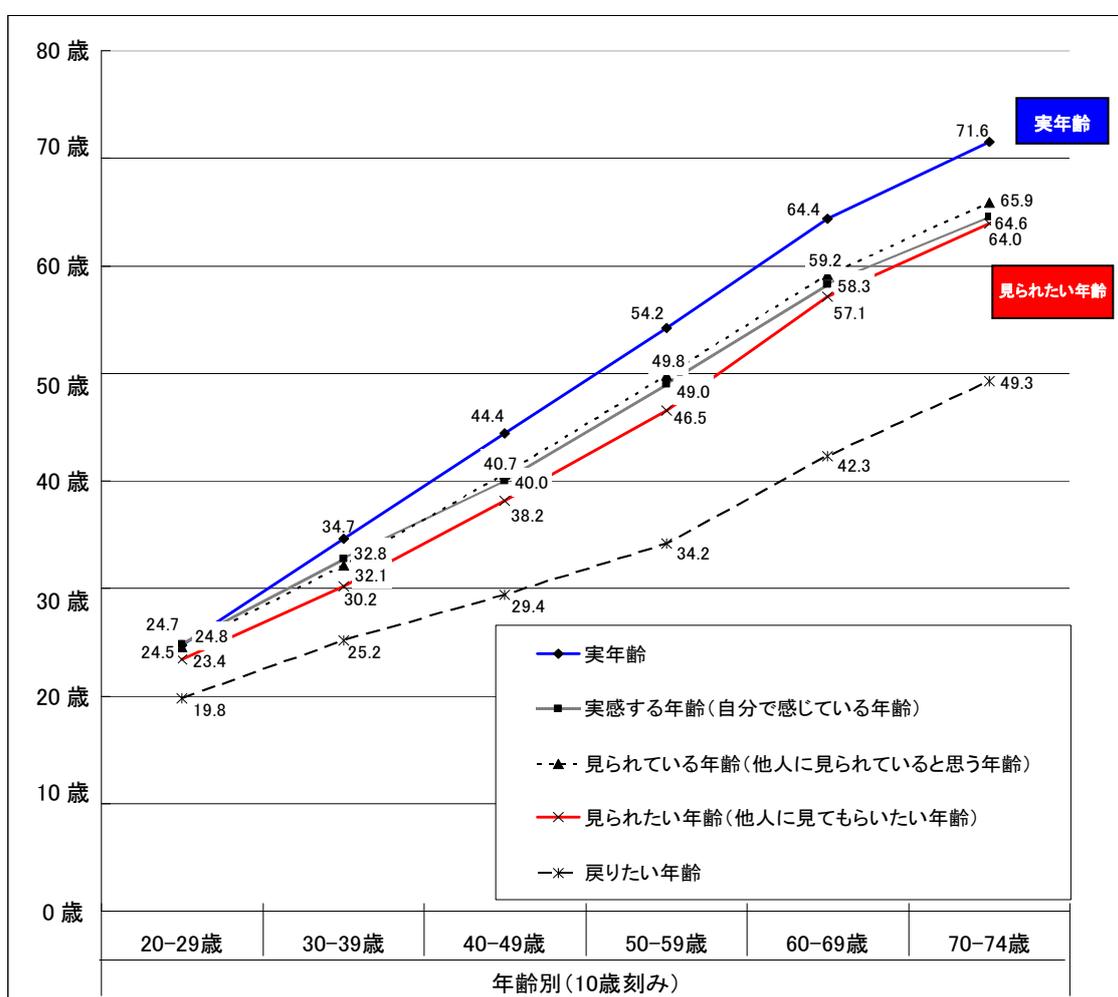
【調査方法】Web 調査(インターネット調査)

【調査時期】2011 年 9 月 21 日(水)～23 日(金)

<外見の加齢に対する意識の変化>

■「見られたい年齢」は「実年齢」より平均 5.6 歳若い年齢

「実年齢」に対する「見られたい年齢」との差は 20 歳代 1.3 歳、30 歳代 4.5 歳、40 歳代 6.2 歳、50 歳代 7.7 歳、60 歳代 7.3 歳、70 歳代 7.6 歳という結果で、平均 5.6 歳、それぞれ若い年齢に見られたいと回答しています。また「実年齢」と「実感する年齢」「見られている年齢」「見られたい年齢」「戻りたい年齢」とのそれぞれの差も、年齢が高くなるほど大きくなる傾向がみられます。

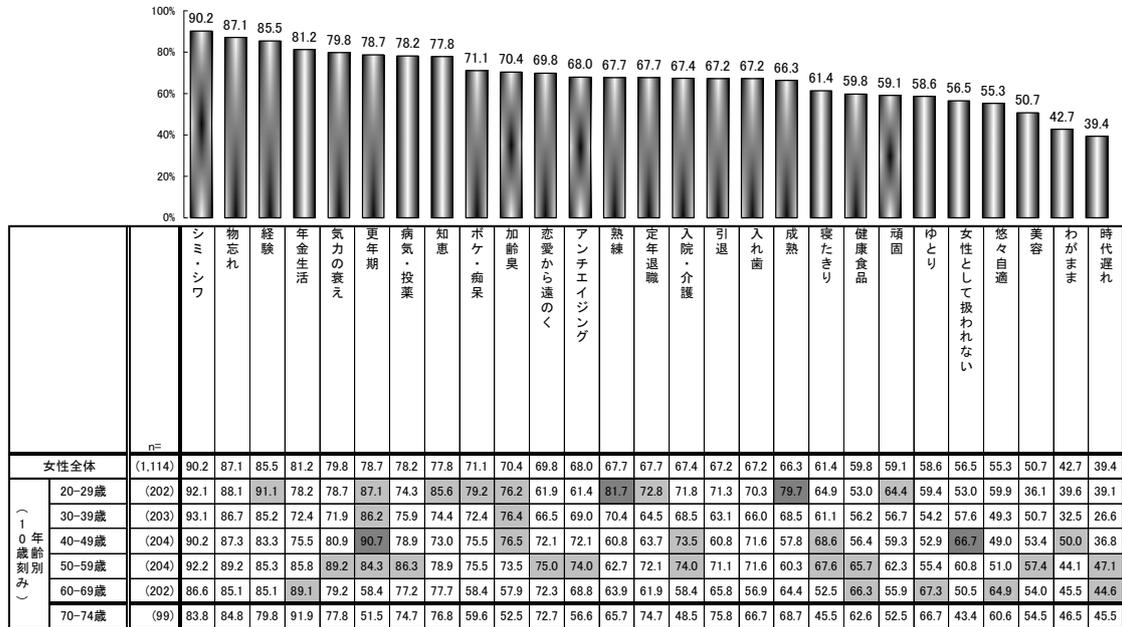


	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-74歳	平均
実年齢	24.7	34.7	44.4	54.2	64.4	71.6	46.9
実感する年齢	24.8	32.8	40.0	49.0	58.3	64.6	43.1
見られている年齢	24.5	32.1	40.7	49.8	59.2	65.9	43.4
見られたい年齢	23.4	30.2	38.2	46.5	57.1	64.0	41.3
戻りたい年齢	19.8	25.2	29.4	34.2	42.3	49.3	31.9
実年齢と見られたい年齢との差	1.3	4.5	6.2	7.7	7.3	7.6	5.6

<加齢という現実に向き合う意識の変化>

■「年をとる」イメージは、加齢とともにネガティブからポジティブに変化

20歳代では、「年をとること」について「熟練」「成熟」のイメージが強く、40歳代や50歳代では「入院・介護」「寝たきり」のイメージが強いです。これは、自分たちの周囲にそのような状態にある方がいるためか、「年をとる」ことに対してネガティブなイメージを持ってしまっていることが考えられます。ただこの意識の変化も60歳代になるとネガティブなイメージのポイントが低くなり、「ゆとり」「悠々自適」といったポジティブなイメージが高くなります。

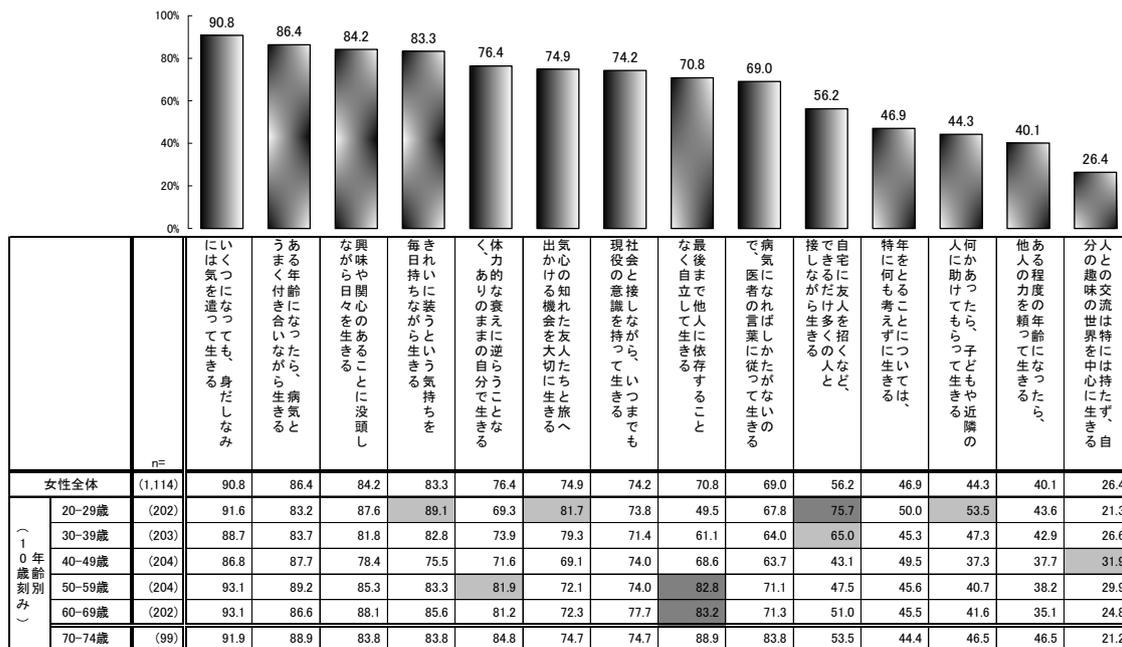


設問：あなたは「年をとる」ことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

■ ...全体を10%以上上回る ■ ...全体を5%以上上回る

■加齢とともに「他人と接点のある生き方」から「自立する生き方」へ

「人生終盤の生き方」について、20歳代では「自宅に友人を招くなど、できるだけ多くの人と接しながら生きる」や「気心の知れた友人たちと旅へ出かける機会を大切に生きる」といった、友人との関係を重視している項目の割合が他年齢層より高く、50歳代や60歳代では、いずれも「最後まで他人に依存することなく自立して生きる」が8割以上、他年齢層より高い割合を示しています。

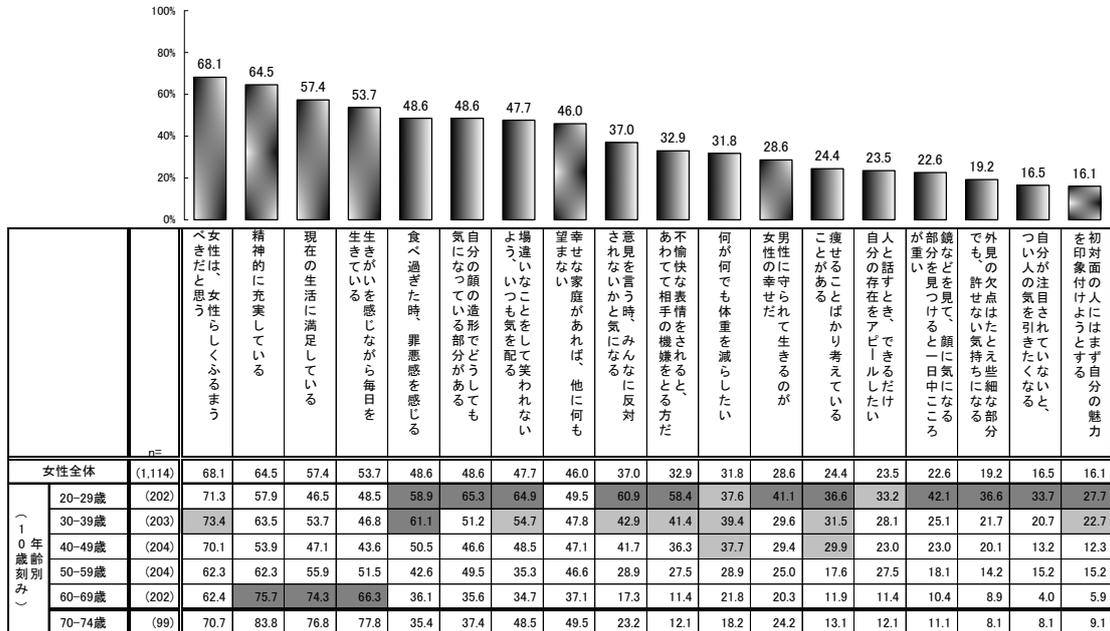


設問：人生終盤の生き方について、以下の項目は、あなた自身の考えに当てはまりますか。

■ ...全体を10%以上上回る ■ ...全体を5%以上上回る

■ 加齢とともに「他者からの評価や外見」から「充実感」を意識

20 歳代では、周囲への気遣い、外見やダイエットに関する項目に、女性全体の平均を 10%以上上回る回答が続き、他者からの評価や外見を意識していることがわかります。60 歳代では、「精神的に充実している」「現在の生活に満足している」「生きがいを感じながら毎日を生きている」といった項目の高さに、日々の生活に精神的に満足し、充実を感じている様子がうかがえますが、それ以外の項目は 3 割以下と低く、周囲への気遣いや外見に関しては冷静に受け止めていることがうかがえます。



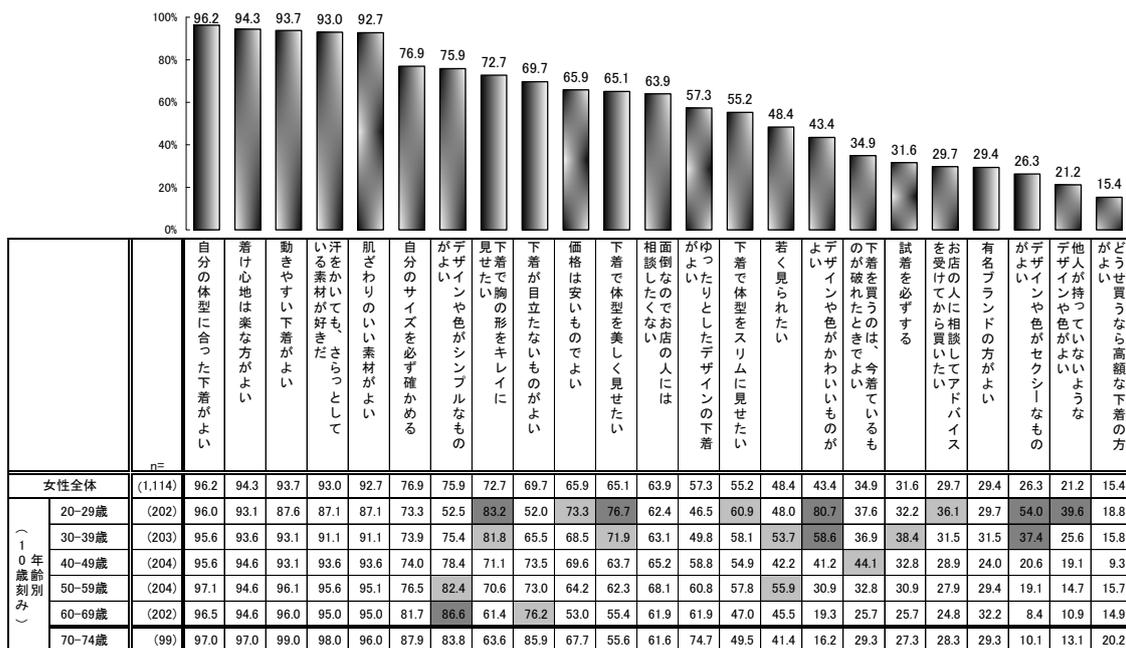
設問：日常生活の中で、以下の項目は、あなた自身の考えに当てはまりますか。

■ …全体を10%以上上回る □ …全体を5%以上上回る

<加齢ともなう、下着への意識の変化>

■ 下着を選ぶときのポイントは「補整・デザイン」から「シンプル」へ

20 歳代や 30 歳代では外見を整えることやデザインに関する項目に、女性全体の平均を 10%以上上回る回答が多く、年齢が若いほど着用したときのボディラインや下着そのもののデザインを意識して、下着を選択していることがわかります。一方、50 歳代や 60 歳代では「デザインや色がシンプルなものの方がよい」が女性全体の平均を 10%以上上回る回答があり、年齢層によって下着を選ぶときのポイントが変化していることがうかがえます。



設問：下着を選ぶときの行動や気持ちに、以下の項目は当てはまりますか。

■ …全体を10%以上上回る □ …全体を5%以上上回る

【参考】聖心女子大学 文学部教授 菅原健介氏による考察

1. 加齢に対する意識の変化

今回の調査で、外見の若さが加齢とともに衰えていくことに対しては、若い層ほど抵抗感を感じている様子が見られました。加齢に対する不安感を持つ人は若いほど多くなっています。反対に加齢への諦め感は年齢が高い層ほど増えていきます。“若い姿をとどめておきたいと思いつつも、次第に、加齢変化を受け入れていく”というのが、年齢に伴う一般的な変化の方向性であるようです。

しかし、「実感する年齢」や「見られたい年齢」という質問に関しては、いずれの年齢層でも、実年齢よりも若い年齢を回答しています。また、年齢を重ねるごとに、これらの年齢と実年齢との差は広がる傾向も見られ、“外見が加齢していくのはしかたないが、それでも実年齢よりも若い印象は保っていたい”という意識は中高年世代においても強いことがうかがえます。

2. 加齢に対する意識の個人差

今回の調査では、外見の加齢に対する考え方を2つの方向からとらえてみました。一つは、あくまで外見の若さを追求する“外見若さ志向”。もう一つが“内面若さ志向”です。同じ年齢の中でもこれらの志向性の強弱には大きな個人差があり、2つの志向性の強弱によって、年齢に対する人々の考えはゆるやかに分布しています。

そこで実年齢の影響を切り離すための統計的な処理を行った上で、それぞれの志向性の程度と日常の行動や意識に関する問いとの関係性を分析してみました。

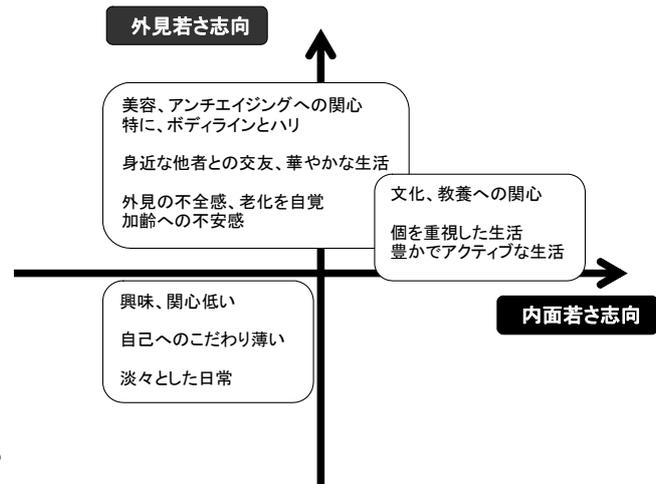
結果は右図に示した通り、外見若さ志向の高い人は、美容やアンチエイジングに対して関心が高く、特に、加齢に伴って失われる肌のハリとボディラインの変化をいかに食い止めるかという問題意識を持っているようです。生活面では友人たちとの交流や華やかな生活を楽しみたいと考え、自分への社会的評価を気遣っています。ただし、外見へのこだわりが強く満足のハードルが高いせいか、外見上の些細な点が気になることも多いようで、全般的に外見への不満感が高い傾向にあります。加齢に対する不安感も高く、外見若さ志向があまりに高すぎると、エイジングを楽しむといった「ゆとり」が失われてしまう懸念もあります。

“内面若さ志向”の高さは、自分のプライベートな生活を楽しみ、文化や教養面や地域活動への関心とともに、仕事を充実させたいと考える人も多いようです。加齢の不安に感わされず、自分なりの個性的な生き方を目指しているように思われます。

また、これら2つの志向性は独立していますので、両方の若さを求めている人たちもいます。外見を磨くとともに、内面も充実させたいという“贅沢さ”は、生活面でも多方面でのアクティブな活動を促しています。一方、外見若さ志向も内面若さ志向も、いずれも低い人たちもいます。加齢への特別な思いもなく、自己や生活スタイルへの際立ったこだわりもなく、淡々と日常を送るという生活スタイルと考えられます。

以上のように、若さ、あるいは加齢に対してどういう態度を持っているかにより、同じ年齢であっても、その生き方、価値観には広範な違いが生じていることが示されました。

かつては、「老人」と言えばイメージできる典型的な姿がありました。しかし、今、高齢者と言っても、そのライフスタイルは様々です。人々のアイデンティティを大きく規定していた「年齢」の影は、次第に小さくなってきているのかもしれない。自分の「歳」をどう考えるのか、人それぞれの態度や価値観が個性を作るようです。



< 報道関係の方からのお問い合わせ先 >

株式会社ワコール 総合企画室 広報・宣伝部 広報課
(京都) TEL075-682-1006 FAX075-682-1103
(東京) TEL03-3239-1117 FAX03-3239-1118

< 一般のお客様からのお問い合わせ先 >

株式会社ワコール お客様センター フリーダイヤル 0120-307-056 (平日: 9:30~17:00)